



院長の独り言 (2016年3月20日執筆)

日本たばこ産業（JT）は4月から、主カブランドの「メビウス」（旧マイルドセブン）を税込み430円から440円に値上げします。たばこ税の軽減措置が廃止される「わかば」「エコー」「ゴールデンバット」など旧3級品の6ブランドも30～50円値上げする方針です。たばこの値段は、今後も上がることはあっても、決して下がらないでしょう。



たばこの健康への害は言うまでもありません。国際がん研究機関による分類によりますと、人に対して発がん性がある（分類1）に入るのは、アルコール、アルコール飲料、たばこの喫煙、ヒ素、アスベスト、ベンゼン、ホルムアルデヒド、アフラトキシン等となっています。ヒ素以下の物質は見るからに有害に見えますが、アルコールも百薬の長などと言われていたはずなのに、強い発がん性を持っているとは驚きです。人に対しておそらく発がん性がある（分類2A）には、グリシドール、アクリルアミド（アスパラギン+糖を120度以上で加熱調理すると発生；ポテトフライ等）、PCB、ニトロソジエチルアミン、ディーゼルエンジンの排ガス等があり、人に対して発がん性を示す可能性がある（分類2B）には、フラン、コーヒー、漬物、ガソリンエンジンの排ガス等があります。ビックリです。コーヒーと漬物は、ガソリンエンジンの排ガスと同じくらいの発がん性があるのです。

アルコールやコーヒーや漬物は嗜好品として、ほどほどに摂ってくださいと言っているのに、決してたばこのように健康に有害だから、やめなければならないということではありません。ちなみに、人に対する発がん性については分類できない（分類3）には、コレステロール、お茶などが入ります。食品に含まれているコレステロールは気にしなくてもいいですし、飲料としてはお茶を基本とした方が無難なようです。

